

平成30年度 商業科教員継続研修 最終報告書

岡山県立岡山東商業高等学校

講師 河原 美恵子

1 研修の概要

先の見えない現代社会は、想定外のことが急に起こる。その中で、生きていくためには、自ら「考え」「判断」「行動できる」力が必要である。また、このような世の中で生活していくためには「情報活用能力」と「経営分析能力」の二つが重要である。

昨今、日商簿記2級は、企業が求める資格ランキング1位（リクルート調べ）にも挙がっており、企業は経営管理、経営分析の基礎理解を測る物差しとして見ている。高度な商業簿記・工業簿記（初歩的な原価計算を含む）を修得し、財務諸表の数字から経営内容を把握できる力を持つことを求めている。まさに「経営分析能力」＝日商簿記2級だと考える。

また、国内76校の大学では、日商簿記2級の有資格者の推薦入学の優遇制度が設けられている。今後ますます高い進路実現には日商簿記2級の取得が必要である。

キーワード「主体性」

2 研究の目的

予測困難な時代を生き抜くために、商業高校生には、将来ビジネスリーダーとして活躍してほしい。そのためには、「経営の3言語」が必要だといわれている。3言語とは、自然言語＝外国語、人工言語＝コンピュータ、会計言語＝簿記・会計である。その3言語を習得するために商業高校では全商協会主催の英語検定、情報処理検定、簿記検定の習得を目指している。これらの検定は通常の学習に少し努力をすれば合格という目標を達成する生徒が大半である。

しかし、ビジネスリーダーを目指すのであれば、全商検定で満足するのではなく社会に通用する資格を身につけてほしい。そこで、商業高校生が目標とすべきものは、自然言語＝実用英検、人工言語＝基本情報、会計言語＝日商簿記だと考える。

つまり、商業高校では、全商レベルの修得を位置付けているが、生徒には「生きるための手段」として、より高いレベルの日商簿記2級を是非取得してほしい。

また、生徒が日商簿記2級を学習する中で、本校が最重点目標にかかげている「3Cの精神」（Change・Challenge・Create）を身につけさせ、日商簿記2級を本校の学習スタンダードに位置づけたいと考えている。

そこで、今回の研究目的を「日商簿記2級出題傾向を分析し、追加論点も含めたわかりやすい教材作成」をテーマに研修をしていくこととした。

3 年間計画と研修内容

(1) 継続研修参加（年12回）

(2) 年間計画以外に参加した講習会

9/8 簿記学習会（会計分野研究委員会）

内容：H30追加論点について（傾向と対策）

11/3・4 日商簿記検定2級対策学習会（大阪IT会計専門学校）

(3) 研修計画

回	月 日	研修内容 (実際)	研修内容 (年度当初計画)
1	4月25日	年間研修計画の作成	年間研修計画の作成
2	5月18日	日商簿記2級の (商業簿記・工業簿記) の問題傾向と対策	日商簿記2級の (商業簿記・工業簿記) の問題傾向と対策
3	6月20日	クレジット売掛金、電子記録債権と電子記録債務 売買目的有価証券、固定資産	クレジット売掛金、電子記録債権と電子記録債務 売買目的有価証券、固定資産
4	7月11日	ソフトウェア、債務保証、引当金	ソフトウェア、債務保証、引当金
5	8月22日	外貨建取引、為替予約	外貨建取引、為替予約
6	9月12日	中間報告会	中間報告会
7	10月24日	リース会計	リース会計
8	11月21日	連結会計	連結会計
9	12月5日	工業簿記の範囲	工業簿記の範囲
10	12月19日	日商簿記2級の教材作成 受験対策	日商簿記2級の教材作成 受験対策
11	2月6日	傾向と対策	報告書作成
12	3月4日	研修報告	研修報告

(4) 内容

ア 日商簿記2級の傾向と対策

(ア) 出題内容と配点

	出題内容	配点
第1問	仕訳問題×5問	20点
第2問	個別論点と連結会計	20点
第3問	財務諸表の作成（連結会計を含む）が中心	20点
第4問	工業簿記（仕訳や勘定記入など帳簿記入問題）	20点
第5問	工業簿記（原価計算の問題が中心）	20点

(イ) 第1問について

- 仕訳は、商業簿記のほぼ偏ることなく分野全体から出題。ヤマははれないので全てにおいてしっかりマスターする必要がある。最近では、テキストの基礎的な問題から考えさせる問題が多く出題される傾向にある。

今までのようにパターンで暗記するのではなく、「なぜこのような仕訳になるのか」を理解することが必要となる。

(ウ) 第2問について

- ・ 個別論点、連結会計などが出題。
- ・ 個別論点は、論点に絡む一連の仕訳を確実におさえる。
- ・ その中でも特に勘定記入の問題に注意する必要がある。なぜなら、「仕訳はできるけど勘定記入ができない」という人が多い。そこで、作問委員もそこを分かっているであえて出題する傾向にある。
- ・ 連結会計は連結修正仕訳をマスターする。

(エ) 第3問について

- ・ 財務諸表の作成（連結会計を含む）などの決算に関する総合的な問題が出題時々、本支店合併財務諸表の問題も出題。
- ・ 連結財務諸表の作成、製造業会計も出題範囲
- ・ 精算表で決算の流れをつかみ、決算整理仕訳の理解と集計がポイント
- ・ 連結会計は連結修正仕訳がきちんとできるかがポイント。
- ・ 実力が問われる問題なので、問題を多く解くことが必要。

(オ) 第4問について

- ・ 費目別計算・個別原価計算・総合原価計算などの帳簿記入や財務諸表の作成など工業簿記の分野からの出題。基本的な問題が多く、高得点が期待できるところなのできちんと勉強し、得点源にする。

(カ) 第5問について

- ・ 個別原価計算・総合原価計算・標準原価計算・直接原価計算の原価計算分野からの出題。各原価計算の方法を区別しながら問題を解く。問題のパターンが決まっているので20点を目指したい。

(キ) まとめ

- ・ 第1問から第3問まで、商業簿記からの出題、第4問と第5問は工業簿記（原価計算）からの出題である。
- ・ 工業簿記は、2級から初めて出題されるので、ひねった問題はあまりなく基本的な問題が多い。
- ・ 2級では、いかに工業簿記で得点がとれるか（いかに落とさないか）が合否を分ける鍵である。
- ・ 第4問と第5問（40点）＋第1問（20点）で60点 第2問と第3問であと得点を伸ばせば合格ラインには達する。

4 研修成果と課題

(1) 日商簿記2級について

商業高校で主として受検している検定は全商検定である。内容的には高等学校学習指導要領に準拠しており、学校の授業を真面目に取り組み、自学自習すれば合格することができ、生徒のやる気ややりがいを感じることができる。それに対して、日商簿記検定は社会人向けの検定であり、実務経験のない高校生にとっては難易度が高い。

その上、毎年のように新論点が追加されており、ますます合格するには難しい状況にある。

全国の合格率と本校での合格率は次のとおりである。

【全国の受験データ】

回	受験者数	実受験者数	合格数	合格率
150 (2018. 11. 18)	64, 838 名	49, 516 名	7, 276 名	14. 7%
149 (2018. 6. 10)	52, 694 名	38, 352 名	5, 964 名	15. 6%
148 (2018. 2. 25)	65, 560 名	48, 533 名	14, 384 名	29. 6%
147 (2017. 11. 19)	63, 757 名	47, 917 名	10, 171 名	21. 2%
146 (2017. 6. 11)	58, 359 名	43, 767 名	20, 790 名	47. 5%
145 (2016. 2. 26)	78, 137 名	60, 238 名	15, 075 名	25. 0%
144 (2016. 11. 20)	72, 408 名	56, 530 名	7, 588 名	13. 4%
143 (2016. 6. 12)	58, 198 名	44, 364 名	11, 424 名	25. 8%

【本校の受験データ】

回	受験者数	実受験者数	合格数	合格率
150 (2018. 11. 18)	15 名	6 名	0 名	0. 0%
149 (2018. 6. 10)	38 名	38 名	3 名	7. 9%
148 (2018. 2. 25)	87 名	74 名	5 名	6. 8%
147 (2017. 11. 19)	15 名	14 名	0 名	0. 0%
146 (2017. 6. 11)	37 名	34 名	13 名	38. 2%
145 (2016. 2. 26)	84 名	77 名	4 名	5. 2%
144 (2016. 11. 20)	48 名	43 名	2 名	4. 7%
143 (2016. 6. 12)	30 名	29 名	6 名	20. 7%

(2) 新論点について

ア 改定の趣旨

(ア) 改定内容

- (1) 出題範囲表から外されるもの（特殊仕訳帳、大陸式決算法など）
- (2) 新たに区分に追加されたもの（クレジット売掛金など）
- (3) 1 級の出題範囲表から 2 級に移行されるもの（外貨建て、連結会計など）
- (4) 2 級の出題範囲表から除外され、1 級に移行されるもの（社債、特殊商品売買など）

(イ) 改定の趣旨

- (1) 近年のビジネススタイルや会計実務の動向を踏まえて、実際の会計実務と検定試験の出題内容がかけ離れないようにするため。
- (2) 取引内容が実務で急速に普及し、利用頻度の高まっていることを解消するため。
- (3) 現状の 1 級出題範囲量が 2 級とかけ離れていることを解消するため
- (4) 受験生に対する学習上の負担軽減を考慮したため。

このようなことから、出題範囲表を見直し、出題項目の一部修正または追加等が行われた。

【改定区分表】

適用年月日	新追加項目	1 級からの移行項目
平成 28 年 6 月施行 (第 143 回試験から)	クレジット売掛金 有形固定資産の割賦購入 役務収益・役務原価 売上原価対立法 引渡基準、出荷基準、検収基準	電子記録債権・債務 子会社株式・関連会社株式 その他の有価証券（全部純資産） ソフトウェア（自社利用） 貸倒引当金（個別評価と一括評価） 賞与引当金、返金調整引当金など 株主資本の計数の変動
平成 29 年 6 月施行 (第 146 回試験から)	圧縮記帳 課税所得の算定	リース取引（借手・定額法） 外貨建取引
平成 29 年 11 月施行 (第 147 回試験から)		連結会計（アップストリームを除く）
平成 30 年 6 月施行 (第 149 回試験から)	製造業を営む会社の決算	税効果会計 連結会計（アップストリーム）

日商簿記 2 級では、平成 28 年度から始まった出題区分改定もいよいよ最終年度。平成 28 年度から従来 1 級の試験範囲であった「外貨建取引」「リース会計」「連結会計の処理（アップストリームを除く）」が追加された。平成 29 年度には、「課税所得の算定」「圧縮記帳」が、平成 30 年度では、「税効果会計」「連結会計（アップストリーム）」「製造業会計」が新論点として加わる。日本商工会議所は今回の新論点について「企業会計に関連する新制度の変更への的確な対応にとどまらず、試験がより実際の企業活動や会計実務に即した実践的なものになるように、IT 化およびグローバル化の進展、ビジネス・スタイルの変化等を踏まえて、実務上の使用頻度が高く、より多くのビジネスパーソンに理解してほしい論点を試験範囲に追加」としている。試験範囲が広がり、ハードルが高くなっていく一方だが、やはり日商簿記 2 級が企業で求められているのは実社会に即した内容に変化しているからではなかろうか。

例えば、「外貨建取引」「リース会計」などは多くの企業で日常的に行われている。企業で使うコピー機やパソコンなどは「リース取引」が多いし、製品の輸出入は「外貨建取引」そのものである。これらの会計処理を学ぶことによって自分の活躍するフィールドを広げることにもつながる。

（3）教材作成について

新論点も追加され、自分自身も教材研究をしていかなければ対応できなくなっているため、出題傾向を分析したり、会計分野研究委員会の主催する簿記学習会に参加したり、専門学校が開講した生徒対象の対策の簿記セミナーに参加し学習を進めた。

そのなかで、平成 28 年度から追加されている新論点と仕訳の問題の教材作成に取り組んだ。また、平成 30 年度追加される新論点についても継続的に教材を作成している。

（4）授業での実践

今年度は、1 年生の担当でもあり、日商簿記 2 級に関わることなく、来年度の実践となる。今年度作成した教材や知識を生徒に還元できたらと思っている。

以前のように短期間で合格できるレベルではなくなっているため、じっくり取り組めるように指導していきたい。

(5) 研修を通して

1年間の研修を通して、日商簿記2級を追加論点も含めて深く理解することができた。日商簿記2級が時代に合った内容に変化していることを知り、商業高校生には今後の武器としてぜひ取得すべきものだという事も分かった。

しかし、新論点も追加され、ますます高校生にはハードルが高くなっているため、意欲的に挑戦する生徒も少なくなっているように感じる。まずは、教員自身も日商簿記2級に対応できる力を身につけることが必要だと感じた。

また、生徒が意欲的に取り組むために、学ぶタイミングやモチベーション、雰囲気作りが必要であり、今後の課題である。今回の研修でテキストについても研究したが、たくさんの教科書や問題集が出版されていて、どの問題集も図解やイラストで分かりやすく作成されている。ただ、高校生は、独学に慣れていない上に社会人と違い必要にせまられていない状況にある。優れた教材も大切だが、学ぶ環境や教員の指導力が求められているのではないだろうか。

今回の研修を通じ、生徒にとってわかりやすく理解できる教材を研究してきたが、学習する生徒に合わせた教材や指導が必要となる。今後も継続して研修を重ね、指導力向上に努めていきたい。

この度の継続研修に際して指導教諭の先生方をはじめ岡山県商業教育協会に大変お世話になりました。ありがとうございました。

《参考文献》

日本商工会議所 (<https://www.kentei.ne.jp/>)

全国商業高等学校協会 (<https://www.zensho.or.jp/puf/index.htm>)

みんなが欲しかった簿記の教科書日商2級商業簿記 (TAC 出版)

みんなが欲しかった簿記の問題集日商2級商業簿記 (TAC 出版)

みんなが欲しかった簿記の教科書日商2級工業簿記 (TAC 出版)

みんなが欲しかった簿記の問題集日商2級工業簿記 (TAC 出版)

過去問題集 (TAC 出版)

日商簿記2級対策問題 (大阪IT会計専門学校)

新論点予想問題集 (TAC 出版)

新論点問題集 (TAC 出版)